

平成 29 年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■ 自主研究 10	公益目的事業 17
主査名	谷口綾子 筑波大学大学院システム情報工学研究科リスク工学専攻准教授	
研究テーマ	道路上の異モード間コミュニケーションの生起と社会的受容※	
研究の目的： 本研究では、安全かつ快適で質の高い交通体系の構築に向けて、道路上の諸課題に対応する一助とするため、歩行者－自動車、歩行者－自動運転車、自動車－自動運転車等、「道路上の異モード間コミュニケーション」に着目し、以下の二つを検討することを目的とする。 目的 1：道路上の異モード間コミュニケーションが活性化する条件・プロセス・空間デザインを質的・量的に検討すること 目的 2：自動運転システム(AVs)や Shared Space 等、新しい交通モード、空間デザイン概念の社会的受容に必要な条件・プロセス・現状の社会的受容レベルを質的・量的に検討すること		
研究の経過（4 月～3 月）： 筑波大では、国土交通省道路局「道の駅自動運転実験」社会的受容性調査のアンケート調査項目提案と実査への協力を行った。2018 年 4 月現在、13 地域中 9 地域の分析を終えている。また、2 月より英国の公共交通事業者、物流事業者、行政機関等へのインタビュー調査を実施中、また 3 月にはロンドンとウェストミッドランド市民対象の WEB アンケート調査を実施し、分析中である。 名古屋大学では、足助、高蔵寺等の自動運転実験の社会的受容性調査を実施中である。また、小型モビリティと歩行者のインタラクションについて、VR を用いた実験を実施済み、分析中である。 大阪大学では、神戸市北区で実施中の自動運転バスシステムの社会的受容性調査を実施、分析中である。 【研究会の開催】 平成 29 年 8 月：第一回研究会(筑波大学東京キャンパス) 平成 29 年 11 月：第二回研究会(神戸市北区)：みなと観光による自動走行実証実験の視察 平成 30 年 3 月：第三回研究会：中京大学法学部教授の講演、ならびに、高蔵寺における自動運転実証実験視察		
研究の成果（自己評価含む）： 現在、我が国では様々な機関が AVs 実証実験を実施している。このうち、国土交通省道路局、愛知県庁、名古屋大学等が主催する実験の社会的受容性アンケート調査データの分析を本研究プロジェクトメンバーが担っていることは特筆すべき点である。これらに国内外で公表されている AVs 社会的受容調査のデータを追加し、メタ分析することで、設問の微妙なちがいによる回答傾向の差や AVs への賛否意識・利用意図・行動意図・リスク認知の一般的傾向(男性は賛成、等)、意識構造を把握することができた。		
今後の課題： 今後も新技術の開発や事故等、AVs に関する様々な事象が報道されると考えられ、それらが人々の AVs 社会的受容性に及ぼす影響を追っていきたい。		